

# 「慰安婦」問題とジェンダー平等ニュース



第11号 2013年1月30日発行

2010年7月15日創刊



発行：「慰安婦」問題とジェンダー平等ゼミナール 〒344-0012 春日部市六軒町77 吉川氣付

電話&FAX 048-738-1780  
ブログ <http://ianhu.cocolog-nifty.com>



## 無関心と沈黙に決別の時

～侵略と植民地支配に反省なき安倍政権誕生に世界が衝撃～

吉川春子



みなさま、明けましておめでとうございます。

本年もよろしくお願ひいたします。

昨年暮れの総選挙で自公政権が誕生しました。そもそも安倍総理の復活は恐ろしい夢を見ているような気がします。憲法改正で「自衛隊を国防軍に」、解釈改憲で「集団的自衛権行使」を可能に。そして中国、韓国には領土問題で力の行使も辞さない構え。政権公約に掲げなかったのに原発を促進等々、政権発足後間がないのに本性をむき出しにしています。加えて産経新聞のインタビュー(昨年12月31日)で、安倍晋三総理は①植民地支配と侵略にお詫びした「村山首相談話」(1995年)と、②「慰安婦」の関与と強制を認めた「河野官房長官談話」(1993年)を見直す内閣の方針を出すと表明しました。

これに対しニューヨークタイムズは「日本の歴史を否定する新たな試み」と題した社説で「過去の偽造」と断定(2013.1.2)、韓国、中国、英国でも批判されています。

2007年3月の参議院予算委員会で、私は「狭義の強制連行の証拠はない」と言う安倍総理(当時)の発言に対し、オランダと中国の例を引いて「これは強制連行ではないのか」と糾しました。防戦いっぽうの安倍氏は「吉川議員の言っていること

は『河野官房長官談話』に含まれている。私は『河野談話』を継承している」と繰り返し答弁したものです。国会での総理としての発言をひっくり返していいのでしょうか。

安倍総理の考えは戦後日本国憲法で否定された戦前の価値観です。祖父は東京裁判でA級戦犯に問われた岸信介ですがその思想的DNAを持つ人物を今の日本で通用させてはなりません。

総選挙では有権者の24%の支持で第一党になったという小選挙区制の問題がありますが相対的に国民の支持が自民党に集まった事実を直視しなければなりません。どうすべきか?昨年のポーランド・ドイツの旅でかつての三国同盟の相棒のドイツが非ナチ化を徹底的に進めた姿を見てきました。1945年、同時に戦後史の岸を離れた二国は全く違う方向へ舵を切り航海してきたのです。“無関心と黙認”がナチス(ファシズム)をのさせられた事をドイツは深く学び日本は学ばなかつたと、私は考えざるをえません。

歴史から学ぶという謙虚さこそが国際社会の一員として受け入れられる、という事をドイツの戦後史から学びましょう。“無関心と沈黙”から決別する年にしようではありませんか。

## 旅行報告書の「出版記念会」 一旅の思い出話に花が咲きました

11月25日、第8回「慰安婦」問題とジェンダー平等ゼミナールのシンポジウムが成功裏に終了した後、ポーランド・ドイツ旅行の報告書の「出版記念会」を開きました。

旅の参加者28名のうち、16名の方が(福岡から具島さん、岡山から小林さん、大阪から杉村さん、愛知から水野磯子さん・安藤さん・藤崎さんを含む)、他にゼミナール事務局長の棚橋さん、世話をした和田さん、名古屋から西山富士ツーリスト社長も特別参加で、懐かしい再会となりました。皆さんに出来上がったばかりの旅の報告書を2冊ずつ贈呈、報告書の素晴らしい出来栄えに驚きと感嘆の声があがりました。

報告書の編集に携わった宮崎信恵さんは映画監督ですが、このような報告書制作は初めてとのことで本業の合間に縫いながら連日徹夜に近い編集作業を続けて、期日に間に合わせてくださいました。

宮崎さんの完成までの報告と皆さんからは、旅のその後の感想等を交えての懇談が賑やかに盛り上りました。今回の旅に参加して、「ドイツと日本の加害責任に対する姿勢の根本的な違いがよくわかった」「右傾化する日本を憂慮」「私たちが語っていかねば」の熱い思いを語り合いました。



報告書は希望者が多かったために100冊増刷しました。  
まだ残部がいくらかあります。

ご希望の方は吉川か後藤までお申し出ください。  
1冊500円でお分けします。

# 第8回ゼミナールの報告

## 意見書提出の取り組みについてのシンポジウム

棚橋昌代

都知事・衆議院議員同時選挙を目前にした2012年11月25日(日)、第8回ゼミを、渋谷アイリスで開催。まず吉川春子さんからは、9月のゼミドイツ・ポーランドの旅で、ドイツでは自国の加害行為を国民に知らせている事実を知ったが、日本では自民の安倍総裁、維新の会などが河野談話の見直しなども言及する情勢に危機感を覚える。今こそ有権者が日本の加害の事実の認識できるように、地元の地方議会で『慰安婦』問題解決の意見書をあげる取り組みを進めることができると、今回のゼミの趣旨説明があった。その後ゼミ制作の「15のときは戻らない(DVD)」の上映でハルモニたちへの理解を深めた。

続いて大森典子さん司会で4つの地方議会の取り組みをテーマにシンポジウム。札幌市の小林久公さんは、日本政府が解決すべきことを市民がさせるようになるのが意見書だと。市議会が過半数で意見書を採択できることから、取り組みをスタートさせ、2008年11月に意見書が採択。意見書の果たす役割は住民が望む社会にしたいという表明。議員に交渉して静かにやるか、署名運動をして大きくやるか二つの方法がある、と。三鷹市の山田久仁子さんは、保育にかかる中で、フィリピンの「慰安婦」と知り合い、ロラネットを結成。「慰安婦」問題について市議や三多摩選出の国会議員にアンケートをとり手ごたえを得る。2009年6月各会派を回り意見書が可決。埼玉県宮代町の町会議員の丸藤栄一さんは14人の議員との攻防を報告。2010年6月に丸藤さんが紹介議員で意見書を提出。賛成討論の際、「慰安婦」の事実に涙し絶句、休憩。しかし否決。ある議員が再提出をよびかけ、紹介議員は6名となり2011年9月採択。めげずにだしてくる熱心さに負けたと当初反対者に言われた。愛知県の水野磯子さんは、県下54の自治体で意見書を上げるために、2011年12月、「愛知・日本軍『慰安婦』問題の解決をすすめる会」を立ち上げた。県議会へむけ議員105人の全員訪問に取り組み中。今日まで26名の議員と面談。市議会での取り組みは、名古屋市の二つの区からと、岩倉市、瀬戸市、尾張旭市など4市で請願を出したが否決された。しかし議員に変化も見られている。

討論では、愛知中村区、尾張旭市、東京町田市の取り組みに加え、多数の質問があり、意見書採択への取り組みをめざす動きがみられ、共感と励ましにあふれたゼミとなった。

## 各地の取り組みから

### 「慰安婦問題解決を求める意見書」を全会一致で採択

奈良県広陵町議 八尾春雄(やつおはるお)

奈良県広陵町議会で、県下2番目に「慰安婦問題解決を求める意見書」を全会一致で採択したのは、9月26日でした。この日は東京で自民党が安倍晋三氏を総裁に選出した日です。ですから、一地方の田舎議会ですが、政治的にまったく真逆の事態が起きたわけです。また、この時期は(現在もなお継続している)尖閣諸島や竹島の領土問題がピークを迎えていた時期でもありました、広陵町議会は「尖閣諸島・竹島は我が国の領土。平和的な外交交渉で領土問題の解決にあたれ。」との意見書もあわせて全会一致で採択しています。

何故この2つの意見書が同時に全会一致で採択できたのか。第一に、戦没者追悼行事で町遺族会が「遺族に残された任務は再び戦争をしてはならんということだ」との挨拶にもみられるように「戦争は嫌だ」が町民の大多数の認識になっていること。第二に、九条の会の活発な活動で町内には平和憲法を守ろうという運動があること。第三に、超党派の議員提案で水道料金引き下げを実現した実績にも見られるような、住民の願い実現には立場を超えて結束したらよいという議会内多數派の存在。第四に、この問題を継続的に取り組んできた平和委員会や慰安婦意見書採択を求めるグループの活動家と議会活動の結合(WAM発行の「中学生のための慰安婦展」パンフもこの結合の中で入手し普及し議員の説得に大きな力となった)。第五に、畠田重夫先生からのドイツ

イツゼッカーダ統領演説の紹介。第六に、24年4月の議員選挙で女性議員が3名となり町議会史上初の「女性議員2割突破」となったこと。第七に、共産党議員団長としての私の“個としての覚悟”などが挙げられます。

県下3番目の意見書はどこか、今回の取り組みで連携したメンバーの次の目標はここに置いていますので、継続して交流や連携を模索していきたいと話し合っています。

### 「『慰安婦』問題・市民のつどい」を横浜市旭区で開催

池田靖子

昨年の11月2日、横浜市旭区の二俣川駅ビルサンハートホールで、「慰安婦」問題の市民集会を行いました。きっかけは、ゼミに参加して「終わらない戦争」を観た二俣川九条の会の二人が、ぜひ地域で市民に観てもらいたいと世話人会で提案、若葉台九条の会も共催しようということになりました。(旭区は九地域に九条の会があります)

さて、自分たちでチラシを作り、チケット(500円)を買ってもらおうと一般の市民に声をかけると、かなり厳しい反応で、「『慰安婦』って商売女でしょ。関心ない」など、なかなか広がりませんでした。しかし、世話人会で試写会をやったときに、すっかり雰囲気は変化しました。このテーマは「九条の会」にとって難しい、けれど一般の市民に「事実」を知らせることが重要、そんな思いに駆られて、両地域九条の会の世話人は、かなり努力をしました。

当日は予想を超える約230人が参加しました。中高年の男女が



多いのですが、若い世代も、特に教科書問題に関わっている方も参加されました。「終わらない戦争」の映画でその真相を初めて知った人、知っていたつもりでも元「慰安婦」たちの残酷な人生を知ったときの衝撃、許せない日本軍の性奴隸制度、いまだに謝罪・賠償しない日本政府、現代に続く女性の人権侵害の問題等々、会場は悲壮な思いに包まれましたが、続いて行われた吉川春子氏講演で、国会議員時代の真摯な活動や歴史的事実を知って、会場は予想以上に盛り上りました。

## 八王子AALA支部で学習会

後藤ひろみ

11月3日(土)、吉川春子さんを講師に日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会(AALA)八王子支部で学習会が開かれました。参加者は38名、始めに、ゼミナールの後藤世話人(AALA三鷹支部事務局長)が紙芝居「慰安婦にされた少女たち」を上演。

八王子AALAのニュースを抜粋すると、「吉川さんのお話は、パワーポイントを駆使した大変詳しく分かり易いものだった」「第三極というとんでもない政党まで出てくる時代だからこそ、目の前の一つ一つの問題にしっかり対処していかなければいけない」「『慰安婦』の問題が今の女性の人権のなさにしっかり結びついていることがよくわかった」「ドイツのナチの犯罪に対する姿勢の鮮明さと、日本の戦争犯罪、治安維持法、『慰安婦』問題に対する民主党の姿勢、自民党安倍、維新の会の橋下、石原の動きなど、今の問題だと思った」「日本の歴史学習で明治以降の近現代史が非常に軽く扱われていることも政治の意図だと思い、怒りを覚える」「『私は員になりたい』の評価を戦争の加害責任を問う映画でないと話されたのは、新たな視点として参考になった」等々、吉川さんの講演は大好評でした。



八王子AALAで  
紙芝居をする  
後藤ひろみさん

## 東京母親大会で話し合い

「人権とはなにか」・慰安婦問題を考える視点

大森典子

昨年12月2日、東京母親大会が開かれ、その第4分科会で「人権とは何か」と題して話し合いがもたれました。ちょうど「いじめ」問題が大きく取り上げられていたこの時期に、身近なところにある人権侵害を自らの痛みとして敏感に感じ、その侵害をやめさせるための力を育てよう、という狙いででした。

「慰安婦」とされた被害者の痛みを感じないで、「彼女たちは稼ぎに行った売春婦だ」などと言ってはばかりない人々は、被害者をさらに傷つけていること、そもそも被害者の被害を自分の身におこったら、あるいは娘に起こったらどのように感ずるだろう、と想像することができない人々が、さらに被害者を傷つけてはばかりないことを話しました。私たちは自分の人権を大切に思い何よりも自分の人権を守る力を持たなければなりませんが、そのことは同時に他人の人権についても敏感な感性と想像力を持つ必要があり、この感性と想像力は教育の中で意識的に育てる必要があることなどが話し合われました。

## 八潮市で炬燵にあたりながら 「15のときは戻らない」を観る会

吉川春子

1月16日午後、八潮市の中脇宅でDVD「ナスマの家のハルモニ(元「慰安婦」)たちの証言—15のときは戻らない」を見る会が開かれました。草加、八潮の女性達が15名参加者しました。このDVDは昨年の2、3月にナスマの家に行って映画監督の宮崎信恵さんが撮ってきたものです。

オカタでミカンやお茶を飲みながら和気あいあいの雰囲気で始まり、まず吉川春子が、30分程度、「慰安婦」問題について話しました。

DVDは32分、参加者はパク・オクスン、イ・オクスン二人のハルモニの体験談に引き寄せられ、涙をぬぐい、ため息が出ます。大学生との対話や日本大使館前の若者とハルモニたちの水曜デモに感激、そして食堂風景や、居間での花札に興じる姿に笑いが漏れます。

終わった後もいろんな意見が出て議論になりました。「日本はすでに何回も謝罪しているのにまだ駄目なのか、と息子から聞かれた。」「韓国以外の国には「慰安婦」問題はないのか」「女性が、どうして名乗り出られないのか」「運動が広がったひとつのきっかけは70年代日本の男性がキーセン観光で、買春旅行に集団で出かけたことから、韓国の女性団体の怒りが高まった」。また、ドイツの強制収容所にも「売春宿があった」事に対する驚きの声が上がりました。(自分の家族にも見せたいとDVDを買い求める人もいました。)



中脇宅でわきあい  
あいと「慰安婦」  
問題について語り  
合いました



## ポーランド・ドイツ10日間の旅に参加して 橋本紀子

旅の感想を寄せてと編集部からの依頼を受け、久し振りに報告集を読み直したら、4ヶ月前の旅のいろいろなことが思い出された。その時も、現在でも持続した疑問というか、日本の課題として明らかにしたいと思っていたのは、なぜ、日本とドイツの戦争の総括の仕方、戦後賠償の仕方、教育のあり方にこんなにも、大きな違いが生まれたのかと言う点である。ワルシャワでも、ベルリンでも、ミュンヘンでもいたるところに、ドイツの戦争犯罪を告発するモニュメントや碑が立てられていた。以前にもベルリンの「ホロコースト」記念碑は訪れたことはあったが、今回のような視点で学習して見学したものではなく、他の海外調査の途中で立ち寄ったというものであったから、今回、受けたような重たい感情とさまざまな側面での知的刺激と、行動への意欲を喚起するものではなかった。

今、私たちは日本国憲法の第一章に「天皇」を置いて出発した、戦後日本の民主主義や民主教育の限界と問題点を、現代の国際水準の人権思想の観点から捉え直すことが求められている。報告集の具島さんの感想文にあった、ベルリンのように、日本の戦争犯罪を告発し、謝罪するような空間を東京駅あたりに出現させることが夢ではなく、現実となるように、私も自分の持ち場で、この旅で得たことを学生たちに伝えていきたいと思う。



# 第1回総会と記念講演のお知らせ

会員のみなさま。日本軍「慰安婦」問題の早期解決のため2010年6月に会が発足して約3年がたちましたので、初めての総会を開きます。また、併せて記念講演を行います。多くのみなさまのご出席をお願いします。

日 時：2013年3月24日（日） 13:00～17:00  
場 所：文京シビックセンター（文京区役所）  
4階・シルバーホール  
(低層用のエレベータでお越し下さい)

総 会 15:30～17:00

議 題 | ①『慰安婦』問題とジェンダーゼミナールのしてきた事  
②今年の予定 ③会員を増やす提案 ④意見交換

この間、ゼミナールを8回、フィールドワークを2回行いました。昨年はポーランド・ドイツへの旅も行いました。ニュースを11号迄発行し、「ナヌムの家」にハルモニ（「慰安婦」）を訪ね、過去の苦しかった思いや、日本政府への訴え、日常の生活ぶりを「15の時は戻らない」のDVDに作成しました。現在会員数は約400人となりました。今や「慰安婦」問題は女性の人権問題にとどまらず、戦争責任、過去の責任と向き合う事、そして日本の重要な外交問題に浮上しています。この3年間の歩みを振り返り、今後の前進のために会員間の意見交換を行います。

記念講演 13:00～15:00

テーマ | 日本の過去の歴史と向き合う  
—中国大陸で日本軍・兵士の行った事

講 師 | 笠原 十九司・都留文科大学教授

昨年、会の企画でポーランド・ドイツに行き、ナチスの野蛮な行為についてドイツが徹底的に反省し歴史に向き合う姿を見てきました。ドイツは近隣の諸国から受け入れられEUが成立。EUは通貨統合まで行い、昨年ノーベル平和賞を受賞しました。他方「慰安婦」問題や、「南京大虐殺」等を教科書から消す侵略戦争の歴史と向き合わない日本。加えて安部内閣の誕生でアジアの緊張は高まるばかりです。

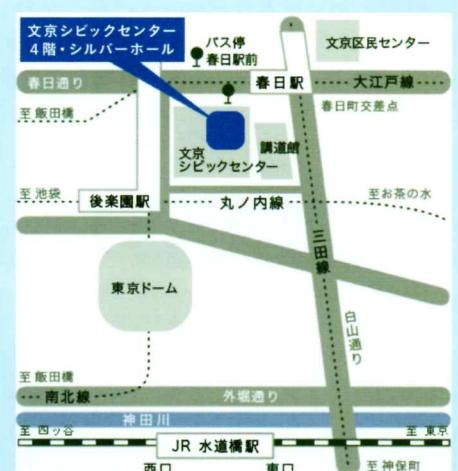
講師の笠原先生は中国大陸で日本軍の南京大虐殺、無数の女性凌辱等「三光作戦」研究・調査の第1人者です。ナチスと同じ事をした日本が反省もしない、これでは日本はアジアで孤立するばかりです。講演後に質問と意見交換も行います。どうすべきかご一緒に考えましょう。

懇親会 17:30～20:00

会場は追ってお知らせします。

参加費：1000円（学生500円）

連絡先：090-4227-7478



交 通：①丸の内線 後楽園駅  
(4a・5番出口) 徒歩1分  
②南北線 後楽園駅  
(5番出口) 徒歩1分  
③三田線・大江戸線 春日駅  
(文京シビックセンター連絡口)  
④JR総武線 水道橋駅  
(東口) 徒歩9分

## 世話人のひとこと

私は2005年に初めて韓国に行き、ナヌムの家を訪れました。あるハルモニが私に言いました。

「あなたたち若い人は戦争への直接の責任は無いけれど、事実を知り、これからどんな日本を作っていくか、その責任はある」学生だった私の心に突き刺さった言葉です。そのハルモニの腕には、抵抗するのを押さえつけるために日本軍の兵士が銃剣で刺したという深い傷が残っていました。

雨が降っても、雪が降っても、病に臥していても、日本大使館前毎週水曜12時に、希望を求めてハルモニが声を上げ続けています。世界を巡って証言活動を行い、性売買被害女性達に連帯の手を差し伸べ、米軍による暴力被害女性たちに共に闘おうと激励し、力強く連帯して歩み続けているハルモニの姿。自分のことだけでなく、もう二度と繰り返せたくない、この気持ちこそ、真実です。

日本にも、「慰安婦」を強制された女性たちが多数います。深く刻まれた女性たちの苦悩の日々を思うとき、私は、声なき声を絶対に歴史の闇に埋もれさせてはならない、誰の命も粗末に扱われてはならないという気持ちを強くします。昨年末の総選挙で、歴史を捻じ曲げて恥じない自民党安倍政権が発足しました。その下で2013年は、日本軍「慰安婦」問題を語り広げる運動が今までにも増して重要な一年になります。私は、事実を受け止めることができる社会を作って行きたいと思います。そして男性も、女性も、セクシャルマイノリティーの皆さんも、それぞれが違いを認め合い、共に尊重し合いながら生きていける社会に、日本を変えて行きたいと思います。

## 池内沙織

## ゼミ会員のみなさまへ

前回のニュース送付の際に、会員個人に会費納入をお願いさせていただき、大勢のみなさまが応えてくださいました。一般には、うっかり忘れていたり、納入したかどうかがわからない場合が多く、今回のように年1回は個人的に声をかけさせていただきます。

こうして、会員のみなさまに支えられて、今年度も財政が確立し、活動が活発に行われています。特に「慰安婦」問題に関する国の責任を拒否し、河野談話を変えようとする安倍政権が登場したことで、いっそう私たちの活動が重要になってきました。力を合わせ、女性の人権やジェンダー平等実現への活動を力強く広げて参りましょう。

（会計担当：池田靖子）



ゼミ制作DVD

「15のときは戻らない」

特別価格3500円（送料別）で販売しています。

お申し込みは当ゼミ、または、FAX03-3699-4407まで

## 第8回「慰安婦」問題と ジェンダー平等ゼミナール

### 【報告】国際社会で批判される「慰安婦」問題、 地方議会の取り組み (開会あいさつと情勢) 吉川春子さん(ゼミ代表世話人)

「慰安婦」問題とジェンダー平等ゼミナールは「慰安婦」問題の1日も早い解決を目指し活動を続けている。今日は第八回目のゼミナール。政府を動かすために政府に圧力かける必要がある。そのために地方議会から国への意見書を提出する運動が取り組まれ39自治体で成功している。今日の開催と偶然に総選挙と東京では知事選とのダブル選挙の情勢が重なった。「慰安婦」問題を通して日本の政治についてもご一緒に考えましょう。

#### ○ポーランドとドイツの旅での発見

私たちは9月に『慰安婦』の視点で巡るポーランドとドイツの旅では、ナチスが各地の強制収容所に「売春宿」を設けて女性たちを性奴隸にしていたという事を知った。

ドイツでは以前から知られてはいたが問題にされなかった。なぜか?強制収容所の生き残りの男性はナチスと戦った英雄でした。彼らが「売春宿」(強制売春所)を利用していたなどと知られると、「強制収容所」の意味をゆがめて国民に伝わってしまう恐れがあるとされたのだ。また私たちは、「売春宿」に女性を「派遣」していたラーフェンスブリック女性専用強制収容所も見学した。若くて健康な20歳以上の女性を選んで送った。女性達には髪を伸ばす事を許し、たっぷりの食物、囚人服ではない洋服、ましなベッドを与えたが性奴隸には違ひはない。また強制労働を免除しこの仕事を6ヶ月すれば自由になれる空約束をした。何人かの女性が生き残るために「応募」したとしても不思議はない。

戦後、女性たちは収容所の生還者として英雄的に扱われた男性と違って、自らの体験を黙して語らず社会の片隅でひっそり生きてきた。この点は日本の『慰安婦』とまったく同じである。

#### ○『ベルリン終戦日記 ある女性の記録』

性暴力の犠牲者は彼女達だけではなかった。ナチスが敗れた時、ベルリンの女性たち(人口200万人のほとんどは子どもと女性だった)は進駐してきたソ連兵のすさまじい性暴力にさらされた。一人の女性ジャーナリストがその様を日記に書き残し、1959年、終戦14年目に出版したが、ドイツ国内ではげしい反発にあい著者自ら生前は日記を封印した。著者の死後の2003年に出版されベストセラーになり、2008年10月には映画が『匿名希望—ベルリンの女』というタイトルで公開。しかし作者の名前は未だに匿名のまま。性暴力の被害女性は何故非難にさらされるのか。何故恥じなければならないのか。ドイツで日本で…。

また、ドイツにも強制売春施設があったからといって日本軍「慰安所」が免罪されるわけではない。女性の人数、また「慰安所」(国連用語ではレイプセンター)の数は、はるかに日本の方が多い。「日本軍『慰安婦』制度は文字どおり20世紀最大の人身売買」であるとアメリカやEUから非難決議を突き付けられている。

#### ○過去と向き合うドイツ

ドイツでは多数あった強制収容所跡を博物館として残し、自国の加害行為を展示し国民に知らせている。その努力は今も続き、2011年にはベルリンにあったゲシュタボ本部跡にファシズムに関する研究機関「テロルの地勢誌ドキュメントセンター」が建設された。更に私達が帰国後の今年10月25日、連邦議会前広場にナチスの犠牲となったロマ(ジプシー)の慰靈碑が建立されメルケル首相も参列した写真が読売と赤旗で報じられている。おそらくドイツは周辺国からの厳しい追及で、こういう姿勢を取らないとヨーロッパで孤立するという事もあったと思う。

#### ○いわゆる 第三局について

今なおこうした努力をするドイツに対し「慰安婦」問題、南京大虐殺等過去を完全に消し去ろうとする我が国。あまりにも違う事に愕然とする。

師走の総選挙で日本はどんな勢力が権力を握るのか。民主、自民、あるいは第3極云々言われている「維新の会」の3つはみんな日本国憲法改正し、歴史を逆戻りさせる点で一致している。

日本人民加害の事実を認識していなければ、日本人民は「慰安婦」問題の真実を理解するうえで大きな誤解や誤認につながる。北朝鮮が「慰安婦」問題を提起するにあたっては、必ずしもその本意は、北朝鮮の人民に対する人権侵害や、北朝鮮の歴史的・文化的・社会的・経済的情勢に対する理解不足によるものである。

北朝鮮は、2008年3月28日、兵庫・宝塚市役所にて市長の開会式で、「慰安婦」問題を多大の意見差を挙げた。北朝鮮は、この問題を「慰安婦」問題と呼ぶが、これは、北朝鮮の立場からすれば、北朝鮮の女性が日本軍によって強制的に性暴力を受けたことに対する抗議である。北朝鮮は、この問題を「慰安婦」問題と呼ぶが、これは、北朝鮮の立場からすれば、北朝鮮の女性が日本軍によって強制的に性暴力を受けたことに対する抗議である。

北朝鮮は、この問題を「慰安婦」問題と呼ぶが、これは、北朝鮮の立場からすれば、北朝鮮の女性が日本軍によって強制的に性暴力を受けたことに対する抗議である。

北朝鮮は、この問題を「慰安婦」問題と呼ぶが、これは、北朝鮮の立場からすれば、北朝鮮の女性が日本軍によって強制的に性暴力を受けたことに対する抗議である。北朝鮮は、この問題を「慰安婦」問題と呼ぶが、これは、北朝鮮の立場からすれば、北朝鮮の女性が日本軍によって強制的に性暴力を受けたことに対する抗議である。

北朝鮮は、この問題を「慰安婦」問題と呼ぶが、これは、北朝鮮の立場からすれば、北朝鮮の女性が日本軍によって強制的に性暴力を受けたことに対する抗議である。北朝鮮は、この問題を「慰安婦」問題と呼ぶが、これは、北朝鮮の立場からすれば、北朝鮮の女性が日本軍によって強制的に性暴力を受けたことに対する抗議である。

北朝鮮は、この問題を「慰安婦」問題と呼ぶが、これは、北朝鮮の立場からすれば、北朝鮮の女性が日本軍によって強制的に性暴力を受けたことに対する抗議である。

日本人民が「慰安婦」問題を提起するにあたっては、必ずしもその本意は、北朝鮮の人民に対する人権侵害や、北朝鮮の歴史的・文化的・社会的・経済的情勢に対する理解不足によるものである。

## ○有権者充実化の必要

日本人民が「慰安婦」問題を提起するにあたっては、必ずしもその本意は、北朝鮮の人民に対する人権侵害や、北朝鮮の歴史的・文化的・社会的・経済的情勢に対する理解不足によるものである。北朝鮮は、この問題を「慰安婦」問題と呼ぶが、これは、北朝鮮の立場からすれば、北朝鮮の女性が日本軍によって強制的に性暴力を受けたことに対する抗議である。

日本人民が「慰安婦」問題を提起するにあたっては、必ずしもその本意は、北朝鮮の人民に対する人権侵害や、北朝鮮の歴史的・文化的・社会的・経済的情勢に対する理解不足によるものである。北朝鮮は、この問題を「慰安婦」問題と呼ぶが、これは、北朝鮮の立場からすれば、北朝鮮の女性が日本軍によって強制的に性暴力を受けたことに対する抗議である。

日本人民が「慰安婦」問題を提起するにあたっては、必ずしもその本意は、北朝鮮の人民に対する人権侵害や、北朝鮮の歴史的・文化的・社会的・経済的情勢に対する理解不足によるものである。北朝鮮は、この問題を「慰安婦」問題と呼ぶが、これは、北朝鮮の立場からすれば、北朝鮮の女性が日本軍によって強制的に性暴力を受けたことに対する抗議である。

地方議会を住民の意思を歪める場とさせては断じてならない。こうした流れを食い止め、『慰安婦』問題解決の意見書をこそ国に挙げることが重要である。

今日はそうした運動に取り組み成功した議会の経験について語っていただき、私たちも学びたい。

ドイツでは日本軍「慰安婦」の運動からナチスの強制売春問題について研究が進むようになったと聞いた。性暴力被害者だと名乗りを上げることのいかに困難なことか。日本人「慰安婦」は一人も公然とは名乗っていない。しかし朝鮮半島はじめアジアの多くの「慰安婦」被害者が名乗りを上げ謝罪と補償を求めて立ち上がったことで『慰安婦』問題を世界に知らしめ、人身売買撤廃、女性への暴力禁止の国際世論を高め人権思想を前進させました。

今日はこの勇気ある女性たちの姿を、今年ナヌムの家に行き撮影してきた映画「15のときは戻らない」（制作・映画監督、ゼミ世話人宮崎信恵）でご覧下さい。

### 【シンポジウム】

4つの地方議会の取り組みと報告  
「慰安婦」問題を住民運動にしよう  
解決要請を政府と国会にあげよう

司会：大森典子弁護士（ゼミ副代表世話人）

この時期にこのシンポを企画したのか。橋下大阪市長などの発言に触発され「慰安婦」問題の報道も多くなり、「強制連行はなかった」という風潮がはびこり、「慰安婦問題をなぜ解決しなければいけないのか」という点での世論が私たちの考えている方向とは逆に流れている。身近な地元の地域で「慰安婦」問題についての共通の事実認識をきっちり打ち立てていくことが必要ではないかという趣旨。地方議会決議をあげる必要性、困難、心配、工夫、あげた後の活用などをお話しただく。

札幌市：小林公久さん  
(強制動因真相究明ネットワーク事務局長・

日本軍「慰安婦」問題の解決をめざす  
北海道の会運営委員)

先ほどのDVDで、朴玉善ハルモニは17歳の時に水を汲みに行き帰りに拉致された、「慰安所」で少女が殺されたと話している。これは犯罪だ。現在も生きている「刑法」をみても明らかに犯罪である。

刑法（法律第45号）1907年（明治40年）4月24日制定

「1880年（明治13年）布告の刑法を廃止し、帝国議会の協賛を経て天皇が公布したもので、「慰安婦」制度を犯罪とする条項として以下のものが考えられる。

- ① 第22章の猥褻、姦淫、重婚の罪は、第76条、第77条で、年齢を問わず男女に対し暴行又は脅迫を以って猥褻な行為や姦淫を成したるもの及び未遂を犯罪としている。
- ② 第82条は、「営利の目的を以て淫行の常習なき婦女を勧誘して姦淫をせしめたる者」を犯罪としている。
- ③ 第33章の略取及び誘拐の罪では、「慰安婦」被害者の帝国外移送を犯罪としていた。

第224条 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者  
ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ処ス

第225条 営利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人  
ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年  
以上十年以下ノ懲役ニ処ス

第226条 帝国外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ  
略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以  
上ノ有期懲役ニ処ス

(2) 帝国外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ  
売買シ又ハ被拐取者若クハ被売者  
ヲ帝国外ニ移送シタル者亦同シ

この外に、第227条以降で帮助や未遂について  
も犯罪としている。

- ④ 他に「慰安婦」制度を犯罪とする条項として、「逮捕及び監禁の罪」、「脅迫の罪」、「詐欺及び恐喝の罪」などが考えられる。

日本政府はまだ日本政府が犯した「犯罪」だと認定をしておらず、「軍の関与」とし、「当時の『慰

安所』での生活が本人たちの意思に反した強制的なものであった」というところまでしか認めていない。被害者の人たちは自分たちの被害の事実をきちんと認め、謝罪をし、賠償してくれ、2度と自分たちのようなことがないように再発防止の措置をとってくれと要求している。自分たちのような人間がいたことを記憶にとどめ語り継いでほしい。そのための記念館を作つてほしいと要求。日本政府しか解決できない。私たち市民は解決できない。しかし政府はやろうとしない。もし政府が謝罪・賠償の措置をとることになったら、轟々とした反対の声が日本社会から巻き起こり、それをマスコミが大々的に宣伝するだろう。

例え、日本社会がきちんとした措置をとることにしても、それを日本社会が認めることができれば、被害者の人たちはそれをきちんとしたものとして受け止めることはできないだろう。日本政府に解決させ、それを支えるのが市民の仕事であるだろう。意見書の取り組みはその仕事のひとつである。意見書は政府に解決を求めるものであるが、住民たちの意思を表示するものであり、「慰安婦」問題の国民の合意を作り上げる作業でもある。

札幌では3回意見者がだされた。1回目は1992年6月札幌市議会で全回一致で可決。その事実を、2回目 2010年意見書を可決した時に、北海道女性史研究会の人たちから知る。1回目の意見書は、当時の社会党女性部が全国で取り組んだ結果らしいが、私たちはそれを知らなかった。

意見書を出す時に、「通っても通らなくてもこういう意見がある」と、とにかくだそうという取り組み方もある。「慰安婦」問題の意見書は、「通っても通らなくても」というより、とにかく通したいということで2010年の意見書に取り組んだ。札幌市議会は全会一致から多数制に変わった。議員構成から公明党が賛成すれば過半数になる。公明党にこのような意見書をあげたいと相談。その際、他の市議会でやっているかと聞かれ、宝塚市のこと 등을伝えると、個人としては了解したが、会派で検討すると。賛成してくれるであろう共産ネットに協力を要請。公明議員とは町会活動で知り合いで会うことはあってくれる。公明本部からは、自公政権中で、「困ったもんだ」といわれたが、会派では、選挙民の要望なので、地方のこ

とは地方に任せてくれということで突っ張って、提案会派のひとつになった。その結果成立した。

やり方として二つある。どの会派にあたればなんとかなるか調べる。議員に相談にいくと、賛成・反対の大きな議論になることを避けたいという。請願署名を集めて市民の声だとどーんとやってこられるよりも、こっそりとやらせてもらう方が波風が立たないから楽だと。当時は政令指定都市でひとつもあがっていなかったので、何とか風穴を開けたかったので、署名運動はしなかった。ひそかにやるほうは反対がおきづらいので通りやすい。だが市民は知らないので、それをどう市民に伝えるかが大きな仕事として残った。札幌市に対して、市として国に解決を求める要望を出してほしい、市職員、教職員などの研修の中に、この問題をいれてほしい、生涯教育、社会教育の中でこのような歴史認識をもつような取り組みへの要望を提出。

地域の実情に応じてやり方は選択である。やる気になれば、1人でもできる。

### 三鷹市：山田久仁子さん

(フィリピン元「慰安婦」支援ネット・三多摩(ロラネット)、ピナツボ復興むさしのネット、「スーパーすはちのこ」代表)

私は三鷹で保育園をずっと以前に作ったり、学童保育や小さなグループの世話をやっていた。その中で外国人の方たちと知り合い、1992年1月武蔵野で国際協力のグループを作った。その中でフィリピンの「慰安婦」の人と出会った。それまでは「慰安婦」問題は大変だからやめておこうと思っていたが、たまたま裁判で来日したおばあちゃんの宿泊を頼まれた。彼女は人の話をよく聞くやさしいおばちゃんだったので、これなら私にも少しぐらいならできるかと、やることになった。

2000年7月、ロラネット結成(三多摩地域でフィリピンに関わる人権・平和・国際協力・労働運動などのグループが「慰安婦」問題でネットワークを組む)。フィリピンのロラ(おばあさん)たちとの交流、ワークショップなどに取り組む。

意見書に取り組むきっかけは、08年10月、ロラネットで、三鷹市議、三多摩選出国会議員に「慰安婦」問題についてのアンケートを実施し、女性の市議会議員や国会議員から、「もしあなたがやるならやるわよ」という手ごたえを得たことだった。何とかしなくてはと思っているうちに、宝塚、札幌、清瀬が決議を上げた。

09年2月、オール連帯主催の3市の「可決」に学ぶ集いに参加し、自分たちはいつになつたら、札幌の小林さんのように可決した側に座れるのだろうと思った。5月に準備段階として「お話を聞く会」を企画し、清瀬の久保田さんの話を市議会議員なども誘い開いた。学習会やイベントを開いて、その後の秋頃に市議会に働きかけようと思っていたが、選挙前の6月市議会がいいといわれる。

三鷹市民17万6千人。議員28名自民11公明5民主5共産4無所属3。公明が味方になればなんとかなると、河野談話をもって幹事長に会いに行く。いつだすのか、と反応がとても早い。それから文案を練り、全会派をまわる。賛成しそうなところだけまわるのではなく全会派を回るのが大事といわれた。ロラネットという名前は知られてなかつたが、ピナットは地域でさまざまなイベントや学習支援などやっていて、議員にも知られていたので、それなら、と入れてくれた。多数決なので、キャスティングボードを握る公明からまわる。民主は、公明がやるなら、と賛成してくれた。6月3日に請願書をだし、10対17で可決（議長は自分で裁決に加わらない）。女性議員は全員賛成。公明は請願の時に議会できちんと発表してくれ感動的だった。共産の議員には最初から最後までいろいろ教えてもらった。2週間後に意見書が可決。夢中で取り組み、可決した後どうなるかなどとは考えてもみなかった。

市民に広く知らせなくてはと8月、中学生のための親子パネル展を企画。会場となる協働センターの人がインターネットにのせてくれたが、そこから、「中学生にポルノを教えるのか」などと抗議や嫌がらせが殺到、全く予想外に在特会が出てきて、1週間の予定が妨害で3日しかできなくなつた。

その後、幸か不幸か、「在特会」効果で、小さなロラネットが一躍全国区になり、札幌まで呼ばれるようになり、在特会からは「やまだ」と呼ばれるようになった。いいことで言えばみんなに広がり、市の職員も開催のために支援してくれたが、議会の中の右翼的な人たちが会場の貸し方についてクレームをつけるなどし、印刷内容の事前検閲、事後提出要求などをはねのけるのに2年かかった。

結局一番足元をすくわれるのが市民だ。市民がきちんと理解できるようにと、2010年5月から、2年かけて、助成金ももらい、ドキュメンタリー映画「カタロウガン」を製作。フィリピン各地を訪ね、ロラズセンターに通うおばあちゃんたちの闘いを撮影した。11年5月から全国40箇所くらいで上映してきた。

おばあちゃんたちが活動資金にと、リサイクルの布で型紙をつくり花丸ぞうきんを縫っている。1枚100円で売っている。いろいろな団体が100枚、200枚と買い支援してくれており、それがおばあちゃんたちの励みにもなっている。8月にフィリピンに訪ねた時におばあちゃんたちは、老後の生きがいは、孫とのくらしなどではなく、「日本政府にきちんと謝罪してもらうこと」、名乗りでたことは後悔していないと、しっかり話していた。すばらしい人生の先輩たちだなと思った。

宮代町：丸藤栄一さん  
(日本共産党埼玉県宮代町議会議員)

宮代町は浅草、今はスカイツリーから東武伊勢崎線と東部日光線があるが、東武動物公園駅があるところが宮代町。埼玉県民でもどこにあるのというような小さな町。首都圏40キロ県内にあるが、まだまだ農村風景も残る比較的自然には恵まれ、人口3万3千人。9年前から4,5年間合併の波が押し寄せたが、なんとか跳ね除けて自立の道を歩んでいる。4年前の選挙で議員定数が20人から6人減らされ、現在14人の議員。議場が変わっていて、執行部の3役と議員が円卓の輪の中にいる。一般質問以外は座ったままで質問ができる。議場といつても議会開会中以外は、机と椅子は片付けられ、普段は小ホールとして町民が使う。

「慰安婦」の請願は2010年の6月議会(否決)、2011年9月議会の2回にわたって提出された。なぜ宮代町で請願が取り組まれたのか。請願者のみなさんの学習や活動はもちろんのこと、大きな役割を果たした二人の存在がある。

1人目は柴田ひろ子さん。柴田さんが私に相談を投げかけてきたのは、2010年の1月。請願を出した7団体をとりまとめたのが柴田さん。彼女はなぜ宮代町から請願をと思ったのか。2008年東京で開かれた日本軍「慰安婦」問題アジア連帶会議に参加し、被害者の女性からの心からの訴えと叫びを聞いたこと。国連の勧告を始め、日本政府に解決を求める世界各国の決議、世論を知ったこと。2009年には埼玉での日本母親会議で、54回目にして始めて「慰安婦」問題を話し合う分科会「日本は忘れて世界は知っている」が設けられ、その責任者をしたこと。彼女は10年間くらい「慰安婦」問題で活動を続けていたが、日本の国会で取り上げられてからすでに20年被害者女性の訃報が相次ぐ中、政府の誠実な対応を求める意見書が当時21自治体、埼玉県内では富士見野市だけと聞き、自分の住んでいる宮代町からなんとしても意見書をあげようと思ったそうだ。

請願書の案文をみんなで話していたら、ある人が「あつ待って、これは大切なことだからもっと大勢の人たちで話しましょう」となり、6月議会に向けて準備を始めた。柴田さんを中心に日ごろのネットワークで7団体による団体請願とすること、被害者女性による証言ビデオを見る学習会や、冊子「日本軍『慰安婦』問題の解決のために」の普及とか勉強しながら7団体の代表者の集まりなどを重ね、14人の議員全員に「慰安婦」問題の資料を届け、紹介議員への大活動を手分けして始めた。

6月議会の請願を審議する委員会を、請願をだした10人が傍聴し、議員4人も傍聴。紹介議員の私は被害者の証言を紹介するうちに、そのあまりの痛ましさに絶句してしまった。発言が続けられなくなり、委員長が休憩を宣言した。後で傍聴者は、それを見て胸がいっぱいになったと。

委員会では私一人が賛成で、保留が一人、民主の会一人がよくわからないと反対、保守二人が反対し、1対3で不採択となった。最終本会議まで3日間だったので、民主の会の一人が賛成に変わ

り、保留だった人も独自の調査に基づく賛成討論をしてくれたので、本会議では逆転採択だと一瞬思ったが、これまで賛成と言ってくれていた公明党の女性議員が本会議で反対討論をした。「委員会で不採択になったものは本会議で採択できない。次の機会を待ちたい」と。あーつと思っているうちに7対6で不採択で本会議が終わってしまった。なんとも後味の悪い結果となった。

2回目は2011年の9月議会に請願を再提出。柴田さんの呼びかけで7団体がそれぞれ勉強もし、全議員を粘り強く訪問し、6人が紹介議員に。1回目は共産党二人だったが、委員会では4対1の賛成多数で採択され、本会議でも9対4の賛成多数で採択され、請願の採択を受けて意見書も同数で可決され、衆参両議長や、首相に送ることができた。

なぜ一度不採択になった請願をだすことになったのか。それにはもう一人のキーマンがいる。無所属の宮原一夫議員からの「もう一度請願をだしませんか」という話がきっかけだった。

請願の紹介議員と意見書の提案者をうけてくれたのが宮原議員。2009年10月の補欠選挙で初当選し、議員2年目だった。72歳、北海道の拓殖銀行に入社し5カ国で暮らした経験のある勉強家でまじめな議員。2011年の6月に私がよく生活相談で利用している越谷市にある法律事務所主催の「東日本大震災と東京電力」の学習会に彼を誘った。彼は快く学習会に参加してくれ、その帰りの電車の中で、「去年不採択になった請願まだしませんか」と言ってくれて、私はびっくりし、意気投合した。彼は海外勤務をした際、中国の戦争の傷跡が、はっきりと脳裏にあって、それで何とかしたいという思いになったからだという。彼はこの請願について、国会図書館と国立公文書館で二日間かけて調べたり、資料を探したり、本などもずいぶん読んで納得するまで勉強したと言っていた。これには傍聴人も感心した。私が特に感心したのは、趣旨説明の最後のくだりで、こう言った。「重要なことは意見書が線で引けばいいということではなく、歴史を正しく教え、これから日本の日本を背負う子どもたちに期待をかけられるように身近なところで、日々の責務を宮代町教育委員会の教育長にはお願いしておきたい。」これも本当に印象的だった。一方請願に反対した保守の議員は、雑誌ウイルなどをかざして、

そういう証拠はないの一点張りで、意見書の審議では、直前に2項目の質問をだしたり、自説なのか他説なのか45分間に渡って反対討論を行った。前回とは逆の9対4の賛成多数で採決された。今回は請願の再提出なので、なんとか可決させたいと、意見書の案文についても、公明党の要請もあり表現を調整した。前回反対し2回目賛成した保守系議員は、「請願の方たちは反対されてもめげずにだしてくるので、その熱心さに負けた」と言った。

先ほど私は委員会で発言が続けられなくなつて休憩という場面もあったと言ったが、私自身も反省している。請願に取り組む前まで、「慰安婦」問題について、今も深くは理解してはいないが、言葉の最後に「婦人」の「婦」とあるので、「慰安婦」は大人の女性だと思っていた。13, 14, 15歳の少女だったということに本当にびっくりした。元日本軍兵士の過ちの証言もあったので、他の議員さんになんとか理解してもらおうと説明しているうちに泣けてきちゃったんです。

日本政府は戦争責任をとろうとしていない。世界の国々はそれを許していない。私もこれからも被害者の女性がだんだん少なくなる中で、一人でも生きているうちに国からの謝罪をさせるように頑張っていきたい。

#### 愛知県：水野磯子さん

(愛知・日本軍「慰安婦」問題の解決をすすめる会事務局長、アジア太平洋・平和文化フォーラム事務局長、ゼミ副代表世話人)

私は長い間女性問題に取り組む中で、私と周りの女性たちも「慰安婦」問題を真正面からうけとめることはせず、今思うと恥ずかしいです。

日本の平和運動は被爆者、空襲など被害という立場を軸足に置き、アジア太平洋戦争の中で加害の問題をしっかりと捉えていたとはいえないのでは?私の運動もその流れに委ねてきたことを今強く反省しています。

私が「慰安婦」問題を正面から取り組んだのは、2006年新婦人愛知県本部主催の「平和の旅」から。ナヌムの家をも訪問、イ・オクソンハルモニの証言を聞きました。「日本政府は何もしてくれない、私が頼りにできるのは、今日お話をしているあなたたちだけだ」と涙を流しながら言

われた。旅から帰り、自分のできることは何かと思う。

身近なところから署名を始めよう、一日も早い解決!自分の住むそれぞれの自治体に意見書をあげよう。その時は全国で11の自治体で決議がっていた。東海4県で、この運動はどこでも始まっているように見えない。

そこでとにかく「慰安婦」問題を知らないくてはと、学習会を企画。東京で第9回アジア連帯会議に参加、吉川春子さんに講師を4度頼んだ。私は県下24の自治体、13会場で、“ジェンダー平等のスエーデン福祉国家と「慰安婦」問題”の2本の柱で講演活動を展開。

とにもかくにも意見書をあげようと、準備期間2年をかけて、個人参加の「愛知・日本軍『慰安婦』問題の解決をすすめる会」を、2011年12月立ち上げた。意見書をあげたばかりの宮代町の丸藤議員に話しを聞き、やる気を頂いた。

愛知県議会の議員構成は自民、民主、公明で8割を占め、共産ゼロ、目新しいのが減税日本一愛知14。全議員105名を訪問し、「慰安婦」問題を語ることに取り組んでいます。

やってみるとおもしろい反応。私も4人で、減税日本一愛知の団長を訪問。ドアを開けると7名がずらーと並んでいる。一人目が「僕の祖父が言った。中国では現地の業者がお膳立てした。日本軍が関係するなんてありやせんよ」。確信を持って祖父の話を信頼している。「河野さんは信頼できない。あれは嘘です」同様の意見が続く。女性議員は発言なし。また、「戦争が終わったのはアメリカが原爆を落としたからだ。あなた方はアメリカに謝罪を要求したのか」の発言に私たちも反論し大騒動。女性議員が「この問題は大事」という発言。最後に「再度お話の機会を持ちたい」というと、団長が「そうしたいですね」の返答で終了。こうして今105人の議員のうち26人を訪問。その中で民主の一人だけが、なかなか大変だといいながら「でも事実は事実だと思う。僕の党(民主)の責任者のところにも行ってくれないか」と返事が返ってきた。

全会一致の県議会、共産・社民もいない。しかし、県民の思いがふつふつと湧き上がった時に、過半数をめざして、署名を広げに広げていこうと進めているところです。河村市長は4年任期半ば

1年8ヶ月で辞任し、即立候補して、66万票獲得で再度市長に。ひどい無駄遣い。来年は任期満了の名古屋市長選。そんな名古屋市議会でも、「慰安婦」問題に取り組んで、署名を広げ、中川地域から12年6月に請願。二人が議場を出ていく、共産一人が賛成。少し変化がある。11年名古屋市中村地域で請願をし、その時は否決。三度目の請願を名古屋市議会に12年11月提出、審議中。

「慰安婦」問題は人権の問題。この問題を片付けなければ、もつれた尖閣列島問題の解決もなかなか。本日のシンポを教訓にこれからも果敢に運動を進めていきたいです。

### 【まとめ発言：質問にも答えて】

小林公久さん：河野談話を出す際の調査の資料が内閣府まであがっていない。当時海軍の指定慰安所についていくのは刑法違反だからとりしまったらどうかという問い合わせに、政府は犯罪だが、現地の軍の実態を考えれば止むを得ない、黙認をするという刑法局長通達をだした。軍がやっているとわからない形で「慰安婦」を集めろと決定し、その内容を昭和15年閣議決定して省庁協議もしている。その資料を吉川さんが国会にださせた。これを使って政府に事実認定をさせようと現在しているところ。

大森典子さん：加害者側の証言について。中国人「慰安婦」訴訟では、まさに女性たちを拉致して印鑑をおしたという加害兵士の証言をしてもらった。その証言録は公開されていない。中国大陸では加害の事実は膨大な数ある。「慰安婦」問題は無数にある戦場での性暴力の象徴的な、組織的な軍中央が作った制度だ。行軍中に女性とみればレイプした事実が沢山ある。その背景には村ごと焼き尽くし、殺しつくし、奪いつくした作戦があった。こういう事が知られていないので、「慰安婦」問題を扱う中で、私たちの歴史認識を変えていく。こういう歴史があったことを世界は注目しているので、この事実を共有していくことがこれからの取り組みの課題である。

アンセゴンさんの写真展への右翼の妨害への対応も課題である。

山田久仁子さん：「慰安婦」というと「慰める」からいいんじゃないのと学生が言ったのは衝撃だった。どのように若い人に伝えるかが問題。

学生たちに「慰安婦」の身になって考えさせるワークショップを開発した。一人のフィリピンの「慰安婦」さんの絵日記をキャプション抜きで見せグループで討論してもらい、キャプションをつけてもらう。その後本人のキャプションと比較。配布した感情カードに学生たちは、悲惨、かわいそうなどに印をつけるが、本人の話をする映像を見た後では、尊敬、責任など劇的に反応が変化。大学、高校などで90分の授業で取り組んでもらい、事実を広めようと努力をしているところ。

**がんどう**  
丸藤栄一さん：事実を知ることは大切。「慰安婦」さんたちの、あまりに苦しく自殺、また監視が厳しく死ぬこともできなかつたという生き地獄は、絶対に許せない。「慰安婦」問題は侵略戦争に対する反省という側面と女性の人権の侵害という問題がある。戦後67年経っても、米軍基地の兵隊による女性への性犯罪に対して反対運動が広がらないことでもまだ侵害が続いている事実がある。こういう問題などを具体的に話していけば、女性の権利に対する侵害問題と理解してもらえるのではないか。

意見書をあげるだけでは駄目といわれたが、自分のやれるところからやろうと思っている。「慰安婦」女性達の生の声を知らせて、事実を広めることに今後も頑張りたい。

水野磯子さん：女性問題に取り組む中で、歴史との関係で「加害」の問題として「慰安婦」問題の解決をと思った。長崎の本島市長は被爆者の悲しい叫びを世界に訴えたが、世界には日本の東南アジアへの侵略を止めた原爆だと感謝する声もある。加害の歴史に真摯に向き合っていくことが今とても重要。道は遠いかもしれないが、戦争はだめだということを、また、女性でこそ「慰安婦」問題の解決を、男性を含め、地域のみなさんといっしょに、愛知県で頑張っていきたい。

2009年の衆議院選挙の時、愛知から出た候補者70名にアンケートをしたところ、回答した25人の全員が「慰安婦」問題を知っており、解決を望むと回答。民主党は全員そうだった。ところが今はどうだろう。

私たちの大きい世論で反動を抑えていくよう、ごいっしょにすすめていこう。